



## モザンビーク共和国の話題集

令和6年8月

外務省アフリカ部アフリカ第二課

### 【国名】

- ポルトガル人の来航以前、北部沿岸の島を支配し交易を行っていたアラブのスルタンの名前Musa al biqueに由来。

### 【国旗】

- 緑色は豊かな大地を、黒色はアフリカ大陸を、黄色は鉱物資源を、白線は平和と正義を、赤色は主権維持を象徴。
- 本と鋤と銃はそれぞれ勉学、生産、闘争を意味し、星は国民の団結を表す。

### 【国土】

- アフリカ大陸南東部インド洋に面する沿岸国。面積は日本の約2倍(約79.9万km<sup>2</sup>)。首都はマプト。人口は約3,296万人。



## 【アフリカに降り立った最初の日本人】

- 1586年、ヨーロッパに向かった天正遣欧使節団は、帰路、乗り継ぎ船を待つためにモザンビーク島に寄港し、モザンビーク島で6か月間を過ごした。現在判明している限りでは、彼らがアフリカの地に降り立った最初の日本人。

## 【訪日した最初のアフリカ人】

- 宣教師ヴァリニャーノが織田信長に謁見した際、信長の希望により献上したとされる黒人の従者は、現在のモザンビーク出身であったと言われる。信長は「弥助」と名付け、家臣にしたと言われる(注)。
- 2023年、モザンビーク北部カーボデルガード州産のうるち米と、国産コシヒカリでできた麴で作られた清酒「サケヤスケ」が発売された。「サケヤスケ」の命名者は親日家のマガラ運輸通信大臣であり、「弥助」に由来する。「サケヤスケ」は、2023年に行われた日・モザンビーク外相ワーキングディナーで提供された。

注: 弥助の出自及び身分に関しては諸説あり、外務省として特定の見解を示すものではありません。

## 【外交官交換】

- 太平洋戦争開戦翌年の1942年7月、交戦国となった日米カナダの外交官等の交換が中立国であるポルトガル領のモザンビークのロウレンソ・マルケス（現マプト）で行われた。

## 【食生活】

- 主食は米の他、白とうもろこしの粉を練った「シマ」が一般的。煮込み料理が多く、代表的なものは、ココナッツミルクとピーナッツのカレー（カリル・デ・アメンドイン）



定食

やキャッサバ（タロ芋）の葉やカボチャの葉で出来たカレー（マタパ、ンボア）等。魚介類も豊富で、エビは日本へ輸出されている。

- 2015年には日本の無償資金協力でマプト魚市場が建設され、連日多くの顧客で賑わっている。



マプト魚市場

## 【カプラナ(アフリカ布)】

- モザンビークでは、アフリカ布はカプラナと呼ばれている。
- カプラナの使用方法は様々で、シャツ、ワンピース、スカートから、テーブルクロス、エプロン、エコバック等として使用されている。
- モザンビーク女性は、カプラナを腰に巻き、また、赤ちゃんの抱っこひもとして使用している。結婚式やフェスタ(お祭り)等では、親戚、友人同士でお揃いのカプラナ服を作ることを習慣としている。



カプラナを身につける女性達

## 【サッカー】

- サッカーはモザンビークで人気のスポーツであり、エウゼビオ元ポルトガル代表選手が有名。エウゼビオ選手は、独立前のポルトガル領東アフリカの出身で、1960年にリスボンに渡ると、所属するベンフィカを中心選手として欧州連覇に貢献。ブラジルのペレとともに同世代最高の選手の一人として称えられた。
- シマオン・マテ選手は、2019年から2021年までJリーグベガルタ仙台に所属。Jリーグでプレーする最初のモザンビーク人となった。同選手は、2019年にJリーグ優秀選手に選出、2020年は正式に同チームのキャプテンを務めるなど活躍した。



マテ選手

## 【柔道】

- 2021年柔道アフリカ選手権男子66kg級でケヴィン・ロフォルテ選手が銅メダルを獲得した。同選手は、東京オリンピック2020にも出場した。



ロフォルテ選手（白い柔道着）

- 2022年、ケニア・ナイロビで開催されたアフリカ・カデ選手権大会において、シェニディ・ツェマネ選手が女子57kg未満級で金メダルを獲得した。同選手は、2023年、アンゴラ・ルアンダで開催されたジュニアアフリカカップでも金メダルを獲得し、その活躍ぶりが地元紙で大きく報じられた。

## 【空手】

- 空手のモザンビーク代表チームは、2022年AUSC（アフリカ連合スポーツ競技会）5地区大会において、9つのメダル（金1、銀3、銅5）を獲得した。

## 【けん玉世界一】

- 2004年7月から2年間にわたりモザンビークに派遣された青年海外協力隊員(理数科教師)の窪田保氏が、課外授業として、けん玉をモザンビーク人学生達に指導。
- 2006年7月、大阪にて開催された「第5回ワールド・オープンけん玉大会」にて、教え子のフラウヴィオ・アルマンド・マカリング氏(当時21歳)が8時間連続(世界記録タイ)でけん玉を続け、優勝した。
- マカリング氏は現在、中部ザンベジア州で初等学校教員となり、けん玉普及活動を展開中。2022年及び2023年には、在モザンビーク大使館が主催した日本祭りにも参加し、会場を大いに盛り上げた。



日本祭りでけん玉を教えるマカリング氏

(了)